

派遣先所属 宮城県医療政策課
氏 名 杵澤 俊夫 (くつざわ としお)
派遣期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

(1) 医療政策課・医療人材対策室

派遣先の医療政策課は、医療人材対策室とともに、地域医療計画、医療法人許認可、県立病院、人材確保等、医療政策の広範囲にわたる業務を行っています。

課・室合わせて9班の組織編成で、職員数は54人(11月1日現在、臨時職員含む)の親睦会も一緒の大所帯で、このうち3人が応援派遣職員(山形県、千葉県、埼玉県)として、地域医療再生基金事業に係る各種事業の執行等の応援業務に携わっています。

【医療政策課】(6班・36人)

企画推進班	・地域医療計画、地域医療再生基金等	<応援職員1人>
調整班	・予算決算、庶務	
医務班	・医師等免許・病院等医療法人の許認可・医療相談	
地域医療第一班	・救急医療、災害医療、周産期医療、原子力災害医療	<応援職員1人>
地域医療第二班	・在宅医療、へき地医療、小児医療、医療機関復旧支援等	<応援職員1人>
病院事業班	・県立病院・こども病院	

【医療人材対策室】(3班・18人)

医師定着推進班	・医師確保、・東北医科薬科大学医学部
医療環境整備班	・勤務環境改善、・病院内保育所
看護班	・看護師確保対策、・保健師・助産師・看護師等免許、・准看護師試験 ・高等看護学校

東日本大震災により宮城県では病院の約7割、全医療機関の約4割が被災し、300億円超の被害がありました。このような状況からの復興に向け、地域医療再生臨時特例基金約800億円等により被災医療機関の再建が進められ、地域の中心となる医療機関の内陸・高台への移転新築(気仙沼市立病院、石巻市立病院、町立南三陸病院)や、創造的復興としての医学部新設などがなされてきました。平成30年度は、復興計画10年間のうち8年目となり、発展期1年目であり、医療分野においてもそれぞれ集大成に向けた業務執行に努めているところです。

私の属する地域医療第一班は8人の班で、当課室内で最も人数の多い班であり、うち半分4人が4月からの新規参入メンバーの構成です。仙台市立病院から転職されたドクターや音大出身の若きチェリストなど、多彩な顔ぶれで救急医療・災害時医療・周産期医療・原子力災害医療等を担当しています。



(2) 災害時医療

私は3年目の若手職員とDMAT（災害派遣医療チーム）経験豊富な先生と3人の「災害医療チーム」で協力し合いながら、災害時対応の医療組織体制や基盤整備、各種災害対応訓練の準備や調整、DMATをはじめとする人材の育成・研修等に係る業務を分担しています（右表参照）。

今年度は、秋田県での参集訓練も含め8つの訓練が予定されており、それぞれ関係機関が相当数あり、準備・調整などが大変な状況です。恒例の6. 12や9. 1の総合防災訓練のほか、4年に1回の、「みちのくアラート2018」（陸上自衛隊東北方面隊の大規模訓練 11. 9～11）もあります。航空自衛隊松島基地の協力で行うSCU（広域医療搬送拠点）設置・運営訓練は初めてのことが多くありますが、この「みちのく訓練」の一環として前向きに取り組んでいます。

また、大規模災害時の医療救護体制の強化に向けた取組については、第7次地域医療計画（平成30年度から6年間）に基づき、体制づくりに係る各地域支部ごとの連絡会議の活動や、補助金を活用した災害拠点病院の機能強化、各種研修会参加によるDMATや災害医療コーディネーターの養成等を展開しているところです。

1組織体制整備	・大規模災害時医療救護活動マニュアル ・災害医療コーディネーター ・DMAT
2基盤整備等	・災害拠点病院(16病院) ・情報通信体制 ・SCU、航空搬送拠点
3災害対応訓練	・東北ブロック参集訓練・研修(秋田県) ・「みちのくアラート2018」 等 8訓練
4研修・人材育成	・研修参加 10事業 ・研修実施 5事業(災害医療従事者向け、医療救護班向け、BCP等)

災害医療コーディネート研修



えされることが多いです。北海道地震への対応（9/6～10 DMAT派遣3チーム等20人派遣）は、待たなしで始まり、その後処理として、災害救助法の求償事務も行っているところ。

9. 1 総合防災訓練（七ヶ浜町）



さらに、懸案となっていた、黒川地域の災害時医療体制の調整や仙台市との連携を図るなどして、災害医療支部体制の充実強化も進めています。（ちなみにこの黒川地域は、平成28年公開の映画「殿、利息でござる!」の舞台となった歴史ファン聖地。この地域の病院での打合せ等には、自然と力が入ります。）

このほか、災害医療のNPO法人に委託して行う、実践演習のグループワーク中心の「災害医療コーディネート研修」等、5つの研修事業も実施しています。さらにさらに、今年度は全国で大きな災害が続いているため、他県等への支援対応にも追われています。西日本豪雨災害の復旧支援のため、当課からも避難所公衆衛生等で職員の応援派遣がされました。刻々と寄せられる対処記録等を見るにつけ災害対応の担当として今後なすべきこと等考

2 被災地の復旧・復興の状況～伝承・減災プロジェクトなど～

宮城県の沿岸地域の復興には特別な想いがあります。大震災の年の4月から埼玉県ではNPO 課勤務となり、様々な支援を行うNPOやボランティアと協働する業務に携わりました。8月に東松山市のボランティア団体が組織したボランティアバスで、東松島市や牡鹿半島や女川町等を訪問した時の、当時の街の様子は強く印象に残っています。

これまでの住んでいた福島市と違い海が近く、県庁の上や通勤で使っている仙山線からも一部海が見えます。市内の若林区には震災遺構として荒浜小学校が、被災した校舎のありのままの姿と被災直後の写真展示等により、防災・減災の意識を高める場として平成29年度から公開されています。

今年7月中旬、勇壮な「塩釜みなと祭り」を初めて見る事ができました。神輿を載せた2艘の御座船が100艘あまりの供奉船を従えて湾内を巡



塩釜みなと祭りの御座船

幸する様に、「相馬野馬追」と同じような、伝統と復興の力強さを感じました。

また、8月上旬には仙台七夕に合わせて妻が仙台に来た際、石巻・女川方面にも足を伸ばし、震災当時の話や復興の様子を詳しく聞く機会を得る事ができました。

航空自衛隊との訓練打合せで視察した松島基地の航空祭にも行ってきました。8月下旬あいにくの天気でしたが大変な人出で、懐かしいファントムや華麗なブルーインパルス



石巻市情報交流館

ンパルスの飛行などが見られました。現在の基地は堤防工事や高台駐機場の整備で津波の防御が三重に強化されています。津波で甚大な被害を受けた基地施設の記憶を想い、テレビドラマ「空飛ぶ広報室」のシーンと相まって感慨ひとしおでした。



ブルーインパルスのデモ飛行に歓声が

宮城県では震災時の記憶の風化への対応に熱心に取り組んでいます。9月に行われた「自治法派遣職員 情報交換・研修会」では、気仙沼合同庁舎での被災経験を紹介した講演者の職員から「伝承・減災プロジェクト」の一環として、県外での報告会等への依頼にも対応しているとの話があり、早速応募する自治体も出ていました。厳しい状況の中でも

しっかり記録映像を残し、強い使命感に支えられた内容の濃い講話に改めて思いを強くしました。

また10月の「応援自治体派遣職員等に対する災害対応力向上研修」でも、膨大な災害廃棄物の処理対応や農林水産業の復旧対応など各分野における震災時の経験を踏まえた詳細な資料が示され、全庁をあげての伝承・減災の取り組み姿勢を感じました。

3 被災地へ派遣となって感じていること～東北4年目2つ目の街 歴史ロマン続く～

福島県の商工労働部で勤務させていただいた3年の間に、雇用確保や企業立地の業務で浜通りへの関わりが1年ごとに深くなり、この地域の避難指示区域においても少しずつ少しずつ復興の進む様子を肌で実感することができました。宮城県の現在の業務では、災害医療の分野において大震災時にどのようなミッションが行われていたかを知る機会が大変多く、災害時の対応を立体的に学ぶ得がたい体験をさせていただいています。

7月に、長年にわたり災害医療コーディネーターを務められた先生から、引退に際して大震災当時のご苦労やその時の教訓を踏まえたその後の訓練指導など、貴重なお話を直接聴くことができました。このような熱い想いを胸に刻むとともに、その広い見識に係る論文なども読み返すなどして、災害時医療の体制づくりに微力ながら努めています。



船岡千本桜と東北本線

福島在住の頃から年に一度位は宮城県にも足を伸ばしていましたが、今年度は季節ごとの宮城を存分に味わっているところです。

陸前落合にある寮への引っ越しがやっと落ち着いた4月の第2週目、蔵王連峰を望む船岡の千本桜を家族と観ることができました。まだ少し肌寒い日ではありましたが、満開の桜をゆっくり楽しめました。また、山本周五郎の歴史小説「縦ノ木は残った」を改めて読み直す契機ともなりました。



仙台駅コンコースでのステージ

県庁近くの勾当台公園や定禅寺通は緑が特にきれいでイベントも多く賑わっています。年度はじめの仕事も一段落した5月中旬初夏の強い日差しの中、新緑の並木を舞台に繰り広げられた、「仙台・青葉祭り」は山車やすずめ踊りがとても華やかできらびやかでした。

9月上旬、北海道地震対応の慌ただしい合間を縫って「定禅寺ストリートジャズフェスティバル in 仙台」を少し見て回ることもできました。仙台駅周辺から定禅寺通りまで街中のいたるところで、内外から過去最高数のアーティストが参加するステージが繰り広げられ、ジャズだけでなく、カントリーアンドウェスタン、ゴスペルなど、多彩なジャンルを楽しむことができました。

また、秋が深まってくると錦秋の街並みが実に見事で、県庁前の通りでも長い間イチョウ並木の色づきが楽しめ、写真に納めている人を多く見かけました。城下町の町割が色濃く残っている市街の北部の丘陵地帯には神社仏閣が多く落ち着きがあり、紅葉も一段ときれいでした。仙山線沿いの「北山五山」は、仏教を深く信仰した鎌倉時代の伊達氏四代当主が、福島県伊達郡に創建した5つの臨済宗の寺がもとだそうです。「京都五山」や「鎌倉五山」に倣って、「伊達五山」と称され、奥州街道などの関門となって城下の北の守りともされたようです。

この寺々や青葉神社などを秋の日だまりの中散策し、福島県の伊達市から山形県の米沢市などを経て延々と連なるいとなみにしみじみ想いをはせることができました。このように東北4年目2つ目の街でも、歴史ロマンに浸る「旅」が続いています。



紅葉の五山や正宗公を祀る青葉神社

(平成31年2月作成)